

社会医学系専門医研修、それは「新しい自分」に出会う旅。

平本 恵子

広島県西部保健所／広島支所／呉支所(兼)北部保健所保健所長



ひらもと・けいこ

1998年広島大学医学部卒業後、同大学病院脳神経外科教室に入局。2006年に広島大学大学院脳神経外科学博士課程修了。2016年広島市入庁。保健センター長、広島市健康福祉局保健予防担当課長などを務める。2020年に広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学(MPH)コース(社会人枠)修了。2025年より現職。



社会医学系専門医
協会のHPはこちら



公衆衛生医師チャンネル
の講義動画はこちら

例えばこういう経験はないでしょうか。生活習慣病の方の診療中に、ご本人の生活背景の厳しい状況を知り、病院のなかだけでは解決しないと感じたこと。あるいは、働き方改革のニュースを見ていて、新しい社会システムのアイデアは思い付くのに、実現する手段が分からず諦めたこと。

一人では解決できない、答えのない課題に直面したとき、あなたは どうしますか？

1. 社会医学系専門医制度とは

社会医学系専門医制度とは、2017年に誕生した、基本領域とは別枠の新しい専門医制度です。臨床医が「個人の病」を診るのに対し、社会医学系専門医は「社会の病」を診る医師として、住民や環境、社会が抱える健康課題を解決すべく、健康危機管理、疾病予防、医療政策など、多様な場面でリーダーシップを発揮します。

研修では、社会医学を構成する「行政・地域」「産業・環境」「医療」の3分野における7つの専門知識(公衆衛生総論、保健医療政策、疫学・医学統計学、行動科学、組織経営管理、健康危機管理、環境・産業保健)と、八つのコンピテンシー(基本的な臨床能力、分析評価能力、事業・組織管理能力、コミュニケーション能力、パートナーシップの構築能力、教育・指導能力、研究推進と成果の還元能力、倫理的行動能力)を獲得します。プログラムは全都道府県に存在し、77種類が運営されています。

研修期間は3年間で、行政や大学、企業等でのさまざまな実務経験と、知識を得るための基本プログラ

ムを受講します。その後、実績と評価を踏まえて修了認定され、試験に合格すれば専門医とされます。

私が所属する広島県のパログラムは広島県・広島市・広島大学が協働運営し、基本プログラムは広島大学MPH(公衆衛生学修士)コースで置き換えることもできます。さらに私の場合、平成30年7月豪雨と新型コロナウイルス感染症という2つの健康危機が実務に重なり、幅広い実践研修となりました。このように、社会の動きに応じたりアルタイムな課題に挑戦できるのも、この研修ならではの強みです。

2. 社会医学系専門医研修の楽しみ方

①「学びのライセンス」を活用する

プログラムが始まれば、早い時期から外部での研修を多く経験しましょう。自ら計画を立て、誰にどうやって連絡するかも大事な研修です。多様な関連施設で柔軟に学べるのは、専攻医という「学びのライセンス」を持つ者の特権です。

②人とながつて仕組みを理解する

研修1年目、私は平成30年7月豪雨の被災地支援を行いました。当時の私は「経験した」とどまり、周囲の動きまで見えていませんでした。現場で大切なことは、経験を増やすだけでなく、人とながつき仕組みを理解すること。その積み重ねが、今度は自分が体制を構築するときの基盤になるのです。

③失敗をキャリアにする

研修2年目は実務と並行し、平成30年7月豪雨の避難所データを広島大学MPHコースで解析し、

避難所の感染予防に役立つ知見を得ました。未知の課題に挑戦すれば、最初からうまくいくことはありません。しかし失敗を繰り返すことで、新しい人脈とアイデアが生まれる。このプロセスが、成長を促すキャリアになるのです。

④自ら足を運ぶ

広島市新型コロナウイルス担当課長を務めた研修3年目。自ら足を運び、さまざまな立場の方に会い、物事がつくられる現場を体感しました。そして1年経つころには、いつ・誰に・どうやって相談すべきか、分かるようになりました。この、五感と手足を使う「生きた関係づくり」が、未来の自分を助ける力になります。

3. 「新しい自分」に出会える研修

こうして研修を終えるころには、今まで見えなかったものが見えてきます。新企画に挑戦するとき、情報を伝えるとき、チームをつくるとき―研修の成果は、見える形になって表れてきます。そして今、専門医となった私は、社会の病をつなぐりの力で解決する「新しい自分」を生きています。研修が導いてくれたこのクリエイティブな人生は、大学教育や全国レベルの協働事業など、行政の枠を超えたつながりも加わり、日々、新しい刺激に満ちています。

社会医学系専門医研修。これは単なる研修ではなく、仲間とながつき乗り越える新しい自分に出会える旅です。見えなかったものが見えてくる。その確かな能力を、研修を楽しみながら、身に付けてみませんか。